



薬物・アルコール
依存症は
回復できる病気です

えひめ DARC

TEL : 080-3994-4173

E-mail : kagawadarc@ybb.ne.jp

えひめダルク

Ehime

DARC

Contents

- 01 目次
- 02 薬物依存症は病気です・依存症になる薬とは？・
どうすれば回復するのか？
- 03 薬物依存症者が自ら命を落とさないために
愛媛生協病院 院長 今村 高暢
- 05 えひめダルクの門を叩いてください
ひめはな法律事務所 所長 弁護士 射場 和子
えひめダルク支援会 会長
- 06 メッセージ
えひめ・香川・徳島ダルク 代表 村上 亨
- 07 入寮とは？（入寮案内）
えひめダルクの1日
ダルクミーティングの紹介
- 09 女性ハウスの紹介
香川ダルク 女性ハウス 代表 櫛田 さゆり
- 10 えひめダルク入寮のご案内
- 11 仲間の体験談（仲間のメッセージ）
- 15 家族会へのご案内
- 16 家族の体験談
- 17 えひめ（香川・徳島）ダルク事業案内
- 18 相談窓口

薬物依存症は病気です。

薬物依存症は、薬をやめたくてもやめられなくなる状態。自分の意志に反して使ってしまう病気です。WHO（世界保健機構）において治療により回復できる病気といわれています。

依存症になる薬とは？

シンナー・覚せい剤・大麻・MDMA などの違法薬物だけではなく、アルコール・睡眠薬・精神安定剤・風邪薬などの市販薬・処方薬でも薬物依存症になることがあります。

どうすれば回復するのか？

薬をやめることは回復の入り口に過ぎません。薬物依存症に陥ると肉体的・精神的な破壊が起こり社会で生きることが難しくなります。

ダルクでは1日3回のミーティングを中心にプログラムを実践することで少しずつ健康を取り戻し、薬を使わずにはつらつと生きること（回復）を学びます。

ダルクには同じ問題を抱え、ともに回復するために歩んでいる仲間がいます。薬物依存症からの回復には、回復しようとする仲間との出会いが必要不可欠です。

薬物依存症者が自ら命を落とさないために

愛媛生協病院 院長 今村 高暢

平成元年、愛媛大学医学部卒。

25年ほど前からアルコール依存症治療に関わり、現在は一般病院でのアルコール臨床に積極的に取り組んでいる。

平成28年より愛媛生協病院の院長に就任。

平成29年1月より、えひめダルク支援会に参加し、活動をサポートしている。



最近、「依存症」の話題がマスコミをにぎわすようになっていきます。「ギャンブル依存症」や「薬物依存症」や「アルコール依存症」などの話題をよく聞くことかと思えます。アルコールやギャンブル（日本では法的にはギャンブルでないパチンコが多い）などは合法的ですが、薬物は違法な薬物への依存症もあり、しかも繰り返すことも多いので、本人の性格や自己責任に結論付けられることがあります。

ただ依存症は「わかっちゃいるけど止めれない」病気であり、本人自身の力ではどうにもならなくなっている状態です。そして病気なので性格や自己責任を持ち出しても解決するどころか余計に回復への道が遠のくことになります。

依存症には様々な障害がありますが、共通して認められる行動や症状があります。第一に、適切な範囲をはるかに超える慢性進行性の行動障害がある、第二に、身近な家族や他者を巻き込む、第三に、気分を劇的に変化させる作用がある、第四に、その心理的背景にこころの空虚さがある、第五に、問題（行動）の否認がある、第六に、再発が多い、第七に、2つ以上の依存症が合併することが少なくない、第八に、家族集積性があり、親が依存症であり、子供も依存症である、というのはよく見られることです。依存症になると脳の問題も起こってくるのが最近の研究では明らかになっており、これに加えて、こころの問題や家族を含めた環境などの問題も複雑に絡み合うために回復への糸口がつかみに

くい、再発しやすい、ということにつながっているものと思われます。

こころの問題に関しては、依存対象にハマることで、だんだんと健康な人間関係から遠のいていきます。本人自身も良くないことはわかっていますので、自己嫌悪に陥っており、自尊心も低くなっています。その反面、そのような自分を認めたくないの、周りに嘘をつく、問題を認めない、という周りの助けを求めない行動に出てしまい、更に周囲の人間関係が悪化して孤独になってきます。その辛さから依存対象に更に依存してしまうという悪循環になっていきます。

アルコールや薬物といった依存対象から一時的に離れても、こころの問題からの回復には時間がかかりますので、孤独感や自己嫌悪の辛さから容易に再発してしまうということもよくみられます。病気の進行に連れて人と人のつながりが切れていき最後は一人きりになるという、ある意味、つながりの病ともいえます。そのため最終的には自死を選ぶ方が多く、依存症の方の自殺率はうつ病に次いで多いと言われています。

依存症からの回復には、まずは切れてしまった人とのつながりをひとつづつ繋いでいく作業が必要です。まずは傷ついた脳を始めとする身体の問題で医療機関の人とのつながりから人とのつながりが再開します。そして、同じ病の人との出会いを続けることで、健康な人とのつながりを取り戻していくことです。医療機関を始めとした専門家も家族を始めとした援助者も、本人の回復を信じることからつながりは回復します。そして回復者の人たちとのつながり続けることが、人を信じ、自分を信じる体験となっていきます。回復への道は気長な時間がかかりますし、私たち専門家は応援することしか出来ませんが、どの依存症の人達も回復しうるのだと信じて、今日もお付き合いさせていただいています。

ひめはな法律事務所 所長 弁護士
えひめダルク支援会 会長

射場 和子

大学では教育学部に在籍、前職は中小企業経営者。
2013年に弁護士登録。香川県丸亀市（田岡・佐藤法律事務所）
で法テラス養成として勤務。その際、薬物依存症の人の刑事弁護
事件を通じ、代表の村上氏と出会い、香川ダルク支援会に入る。
その後、法テラス広島法律事務所に常勤弁護士として赴任、
広島ダルクを支える会メンバーとなる。
2017年、松山で、ひめはな法律事務所を開業。
同年1月、えひめダルク支援会 会長に就任。
日本弁護士連合会 被害者支援委員会委員。愛媛県弁護士会
犯罪被害者支援委員会委員、子どもの権利委員会委員ほか。



今や、成年者のみならず未成年者、そして女性にも広がる薬物依存症。どうして薬に手を出してしまったのか、なぜ薬を使い続けるのか、何度もやめると家族に誓ってもまた繰り返すのか……。

覚せい剤や大麻、危険ドラッグの使用は犯罪とされ、裁判でも、薬物をやめるよう決意すること、反省することなどを求められます。でも、刑務所で服役しても、また多くの人が薬物を繰り返し使ってしまうのです。

薬物依存症は病気であり、病気からの回復に必要なのは、反省でも決意でもありません。回復のために必要なのは居場所です。その居場所がダルクです。ダルクには、ミーティングをしながら、今日一日、回復のために共に過ごす仲間がいます。今まで何度も刑務所に入りながらも薬物を止められなかった人が、気づくと何年も薬物の使用が止まっているという現実があります。しかも、刑務所の塀の中にいるのではなく、私たちと同じ地域で、日々生活しながら、薬物の使用が今日一日、止まっているのです。その現実、理屈ではなく、まさに人の生き様を持って感じるもの、伝えるものだと思います。

愛媛にはダルクを必要とする多くの当事者とその家族がいます。彼らは、絶望のどん底だと感じているかもしれません。誰も信じられないほどに、疲れ切って苦しんでいるかもしれません。だからこそ、その人たちに、ダルクのことを一緒に伝えてください。ダルクは出会いを待っています。

えひめ・香川・徳島ダルク 代表 村上 亨

13歳で初めて薬物と出会った。以降、薬物依存症に陥る。
30歳頃より、3度の刑務所を経験する。
3度目の刑務所出所後、北九州ダルクに繋がり、
薬物依存症からの回復が始まった。
平成23年12月、香川ダルク設立。
平成25年12月、徳島ダルク設立。
平成29年3月、えひめダルク設立。
現在、愛媛県、香川県、徳島県を中心に学校講演等、精力的に活動している。
仲間と共に生きながら、回復のメッセージを送り続けている。



僕は13歳の時に、初めて薬と出会いました。できる事とできない事を見分ける力がないままに、薬を使い続けました。

精神病院に入退院を繰り返すようになりました。そして、4度の逮捕で計3回、約10年間を刑務所の中で過ごしました。その間、社会に出たのはわずか半年ほどでした。身も心もスピリチュアルな面もボロボロになっていました。

3回目の服役の時、父親が面会に来て、「一人で生きていくのか、それともダルクに行くのか」とだけ僕に伝え、父親は立ち上がり面会室を出ていきました。

出所の日、僕は紙袋を2つぶら下げ、着の身着のまま北九州のダルクに繋りました。39歳でした。どうしてもなかった重度の薬物依存症の僕を、ダルクは受け入れてくれました。

リーダと仲間たちとの出会い、ダルクのプログラム、ミーティングとの出会いがありました。そこから、今日まで10年以上、薬の使用が止まっています。

平成22年9月、当時ダルクが無かった香川県に、ダルクを設立しようと尽力していた、先行く仲間である、伊藤弘行氏が亡くなりました。僕は気が付いたら仲間達の前で手を挙げ、「僕がやります」と言っていました。

伊藤氏の遺志を引き継ぎ、右も左も分からないまま、一度も足を踏み入れた事のない香川県に来ました。そして、平成23年12月に香川ダルク、平成25年に徳島ダルクを設立し、平成29年3月、えひめダルクを仲間と共に設立しました。今日まで仲間と共に新しい出会いを繰り返しながら、共に活動を続けています。

薬物依存症という病気は、「治癒」は無いが、「回復」は、し続けることが可能です。ダルクの目的は、依存症という病気で苦しんでいる仲間が、再び社会の有用な一員として、共に生きていく為の手助けをすることだけです。

えひめダルクは、「ありのままを認め合いながら、共に生きる居場所を、地域に根ざすこと」を理念に、これからも活動を続けていきます。

入寮とは？

入寮・通所によるリハビリプログラムの提供

薬物依存症者に共同生活の場と、薬物を使わない新しい生き方を実践するプログラムを提供することによって、薬物依存からの回復を支援しています。

薬物依存症の他、アルコール依存症、クレプト(窃盗・万引き依存症)、ギャンブル依存症、その他の依存症の受け入れも可能です。まずは、ご相談ください。

えひめダルクの一日

7:30 ~ 8:00	起床
8:00 ~ 8:30	朝食
9:30 ~ 10:00	施設内清掃
10:00 ~ 11:00	ダルクミーティング
11:00 ~ 13:00	買い物、昼食、休憩
13:30 ~ 16:00	運動プログラム(ウォーキング) *雨天時はダルクミーティング
16:00 ~ 17:00	休憩・筋トレ
17:00 ~ 17:30	夕食の買い物、夕食の下準備
19:00 ~ 20:00	自助グループのミーティング
20:30 ~ 21:30	夕食の準備、夕食
21:30 ~ 22:30	入浴
23:00 ~ 24:00	就寝

●レクリエーション、その他

夏は海遊びやサーフィンなど、季節に合わせたプログラムも実施しています。

また、自助グループの大会や、県外のダルクフォーラムなど、国内や海外での研修にも参加しています。



～サーフィンスクールの様子～



●ビーチクリーン活動



●運動プログラム・筋トレ

薬物依存症に陥ると肉体的な破壊が起こります。散歩をしたり、走ったり、ベンチプレスなど、ともに運動することで健康を取り戻していきます。



●食事の風景

ダルクミーティングの紹介

ダルクミーティングとは、全国90箇所のダルクが共通して取り入れている依存症リハビリプログラムです。

自助グループの回復プログラムに基づいた「ダルクミーティング」は依存症から回復する為の大きな柱となっています。

ダルクのミーティングでは、同じ依存症者の仲間同士でこれまでの体験を深く分かち合い、「過去、どうであったか」「現在、どうであるか」「これからどうなりたいか?」について、正直に事実と行動をありのまま話します。

ダルクのミーティングを通して、自分自身と向き合い、そして同じ悩みを持つ仲間と信頼関係をつくる事で、お互いに支え合いながら新しい生き方を見出していきます。



ミーティング風景

女性ハウスの紹介

香川ダルク 女性ハウス 代表
櫛田 さゆり

私自身、処方薬に依存し、やめたくてもやめられず、摂食障害にもなり、食べ吐きを繰り返してきました。私の息子も薬物に依存し、親子で狂っていました。その結果、家庭は崩壊。家を失い、自分の居場所をなくしました。

たどり着いたのは薬物依存症の回復リハビリ施設「香川ダルク」でした。仲間と24時間うんざりしながら過ごし、ミーティングで人の話を聞いて、自分の話をする面倒くさい事をしました。自助グループのミーティングやダルクのプログラムを続ける事で、どうしても止められなかった薬、摂食障害が不思議と止まっています。

香川県に、女性専用の依存症リハビリ施設「香川ダルク女性ハウス」が設立され、愛媛・香川・徳島など、全国各地から女性の方も入寮の受け入れが可能となりました。

私は、同じ悩みを抱える女性や、刑務所や専門病院等で、今も薬物依存症という病気に苦しんでいる、居場所や行き場の無い女性の仲間と回復のプログラムを一緒にしたいです。

女性ハウスへのお問合せ・入寮のご相談

TEL/**080-3994-4173**

(えひめダルク代表 村上) までご連絡ください。

香川ダルク 女性ハウスホームページ

<http://www4.hp-ez.com/hp/kagawa-jyoseihouse>

えひめダルク入寮のご案内

入寮・通所費

入寮費 1ヶ月…………… **¥155,000**
(初月のみ¥170,000)

入寮費内訳	
生活費	1日¥2,000×1ヶ月
家賃負担分	¥41,000
共益費負担分	¥20,000
プログラムケア費	¥32,000

通所費 1日…………… **¥5,000**

通所費内訳	
プログラムケア費	¥3,000
食費等	¥2,000

生活保護費の範囲で入寮・通所もできます。費用のことなど、どんなことでもよいので一人で考えないで一度ダルクに相談ください。相談は無料です。電話相談は、24時間対応しています。体験入寮・通所も行っていますので、ダルクへ相談ください。

入寮・通所についてのお問合せ

TEL/**080-3994-4173**

(えひめダルク代表 村上)

E-mail/kagawadarc@ybb.ne.jp

仲間の体験談

～ Voice ① カンナムの話 ～

危険ドラッグと出会いました。アダルトショップでコンドームの袋のような物がグッズの棚にありました。買ってみることにしました。白い粉が入っていました。舐めてみました。酒に酔った感覚になりました。フワフワして嫌なことも忘れて気持ち良かったです。

また買いました。酒と同じくらいに考えてました。全部飲んでしまいました。部屋の窓から落ちました。フェンスとブロックの間で宙ずりでした。救急車やパトカーがきて、レスキュー隊に助けられました。病院の先生に、「次の日曜日に婚約者とウエディングドレスを見に行くんです退院させて」と言いました。

病院を出て薬を使いました。試写室で粉を飲んで気が付いたら両親の経営する会社に車で突っ込んでました。車を乗り換えて自宅に行きました。警察官を引きずりながら自宅に何度も車で突っ込みました。

一人ぼっちになりました。やけくそでした。運転中に薬を使いました。事故をしました。近くにあったガソリンスタンドを壊しました。走ってきた車も壊しました。飲食店のガラスをタンクで割って中に入って暴れました。また逮捕されました。

施設に繋がりました。現在、三年四カ月、薬の使用が止まっています。もうすぐバイトプログラムのうどん屋に行って一年がたちます。今まで練習してきた聞く事、話す事、続ける事をしています。皿洗いを続け最近少し麺を打てるようになりました。そして、仲間の元に沢山の麺を持って帰れるようになりました。

これからも続けていきます。仲間と共に生きて。トルコにまだ苦しんでいるであろう仲間の居場所を仲間と共に作ります。

～ Voice ② シンゴの話 ～

薬の使用と密売で警察に捕まり刑務所に行きました。人の言う事など聞く耳を持たず我がまま好き放題に生きてきた僕が、「右向け右」と言われたら右を向き、歩く時は号令のもと行進をする、何をするにも許可をもらってからでないとする事ができないという監視の中での不自由な生活を強いられることになりました。

受刑生活では、自分が優位に立って生活をするかということを考えて

ばかりいました。だから刑務官の前では真面目なふりをする、受刑者同士では自分がどれだけ悪かったか、どれだけの薬を扱ってきたかの話、家族には、自分が家族みんなを心配している心優しい家族思いの息子を演じながら、面会や金銭と本の差し入れを要求することをしてきました。

そんな中、偽りの自分を作る癖がついてしまいました。刑務所なんて二度と来たくないと思った僕は薬をやめようとするのではなく、次はどうすれば警察に捕まらないか、薬を安く手に入れ高く売るネットワーク作り、出所したら薬をキメてどうやって楽しむかということしか考えず受刑者同士で薬仲間を増やしていきました。

出所後すぐに薬を使用して、また同じように薬の密売をするようになり刑務所には二回で七年八カ月入所しました。刑務所では薬物依存症だと気付くことすらできませんでした。

現在は施設でプログラムを受け二年三カ月薬が止まっています。依存症の仲間の手助けをしながらメッセージを伝えている先行く仲間を見て僕もそうなりたいという希望を持って毎日プログラムを受けています。続けます。

～ Voice ③ ユウヘイの話 ～

自分がクレプトマニアだと知ったのは施設につながってからでした。初めて万引きしたのは高校を辞めて、酒やタバコを覚えはじめた15歳の頃でした。CDをカバンに入れて店を出たのを覚えています。

恵まれた環境にしながら不平不満ばかり言っていました。この頃はとにかくバレない様にバレない様にと思いながらやっていました。周りの友達に対して友達である証が窃盗と薬物をする事だと思っていました。

何とかだましだまし社会で生きていました。30歳の時、結婚しても万引きはとまりませんでした。

この頃から睡眠薬もたくさん飲むようになっていました。コンビニやスーパー、ホームセンターなどで使いもしない物まで盗んで車の中にたくさん置いていました。万引きをするのは当たり前という認識の中で生活をしていました。

34歳の時にドラッグストアで咳どめを取り逮捕され、その1年半後また空港の書店で本を取り逮捕されました。

その時、施設の事を知り裁判の心証をよくしたいという理由から施設に入りました。回復に向けてやっていこうという気持ちは全くありませんでした。

自分がクレプトマニアという病気だと認められませんでした。

今はつながって1年がすぎ、刑務所ではなく社会で居る事ができています。自分のイヤな事したくない事をする練習をしています。自分の弱さや恥ずかしい事を話して、仲間の話を聞き、体を動かして食べる事で元氣になれました。万引きも薬も止まっています。

これからも居続け、仲間の居場所を作り、まだ苦しんでいる仲間に、自分がしてもらった事をしていきます。共に生き続け回復していきます。

～ Voice ④ ショウタの話 ～

毎日の様に近所のスーパー3軒を順番に回っては酒を万引きし、家で飲んでいた。持っていくものは肩掛けのトートバックのみで身なりには気を使っていた。最初のうちはビールのダースやチューハイなどだったが、量も度数も物足りなくなり、それがウイスキーや、ワインに変わっていった。24時間、何日間も何週間も酒を身体から途切れさせないよう常に部屋には酒のストックと空きビンが転がっていて、それを片づける事さえしようとしなかった。部屋のこもった空気が嫌で、季節を問わず窓を全開にしてエアコンをかけていた。

空を見るのが好きで、ベランダにはスタンドと灰皿とパイプイスを2つ並べて、よくそこでボンヤリと空を見ながら酒を飲んでいた。

ケータイが鳴る音さえ煩わしくて、電源を入れるのは1日のうち3、4回程だった。家族、友人とも連絡を取らず、会話もほとんどしていなかった。

昼夜の感覚がなくなっていた。仕事にも時間にも縛られず、僕は完全な自由を求め、それを掴んだと思っていた。すべて酒を飲んだ事による錯覚だった。

急に押し寄せてくる不安、体調の悪化もアルコールを飲んで誤魔化し、麻酔の代わりのように飲み続けた。自分がアル中である事は明白だったし、医師から「あなたはアルコール依存症です」と診断された時も、一切の否定、否認は無く、「ああ、やっぱりそうか」とすんなり受け入れる事が出来た。そこから飲酒のペースがさらに加速していった。

もう何もかも、どうでも良かった。酒を飲んで死ぬなら本望だ。と本気で思っていた。体を切って自分の血でキャンパスに絵を描く、狂気の日々だった。

現在、施設につながり、今までの人生で最も避けてきた体を鍛える事

と、酒を断った生活を仲間と共に続けている。

今は、仕事をしたいという気持ちを抑え、バイトプログラムに出ている仲間、探している仲間の動きを見てバイタリティに変えている。

～ Voice ⑤ リョウタの話 ～

僕は、23才ぐらいの頃に、スロットと出会い、何回かパチンコ屋に行くうちにスロットにはまり、家族のサイフからお金を取ったり家にある売れるような物を売って、現金に変えてパチンコ屋に行っていました。

自分のサイフのお金がなくなると家族の物に手を出してパチンコ屋に行っていました。

パチンコ屋では、店が開く前朝早くから入口の前に並んで、開店と同時に店の中に入ってスロットを打っていました。

パチンコ屋の中では、缶コーヒーとタバコがあればよくて、ご飯は食べていませんでした。開店時間から閉店時間、約13時間ぐらいひたすら打ち続けていました。

お金を増やす目的でパチンコ屋に行ったり、何か嫌な事があるとパチンコ屋に行ってストレスはっさんしていました。

それでも、負けるとよけいストレスが溜まって、結局イライラして家に帰っていました。そんな時は、コンビニで好きな物を買えるだけ買って、自分の部屋に持って行って、一度に全部食べていました。

お金を持っていなくても、パチンコ屋に行って、誰かが打っているのを見ているだけでも気分が落ち着く時もありました。

どんなに負けが続いていても、次に取り戻せればいいと思っていました。情報集めをするのも好きでした。そんな僕でした。

施設につながって三カ月が経ちました。今は、パチンコ屋に行かずに、仲間と一緒に、施設のプログラムをやりながら、生活をしています。

今は、自分のできる事を少しずつでもやりながら、施設の生活の中で、何か目的を見つけていきたいと思います。

家族会へのご案内

依存症の問題にお悩みの家族の方へ...

家族会 メリーゲート

メリーゲートの特徴

薬物依存症 リハビリ施設 えひめダルクとの繋がり

メリーゲートは、発足時より薬物依存症リハビリ施設「えひめ・香川・徳島ダルク」と、回復の歩みを共にしてきました。えひめダルクによる、家族相談はもちろんの事、依存症などの病気を抱えている当事者をえひめダルクに繋げる事も可能です。

依存症専門医師 藍里病院 副院長 吉田 精次医師による依存症家族勉強会への参加

毎月、第4土曜日に藍里病院で、吉田精次医師による、依存症家族勉強会に参加しています。(クラフトプログラムの学習も行っています)

- 会場／社会医療法人 あいざと会 藍里病院 新館 3F 会議室 (AM10:00~AM11:30)
- 住所／徳島県板野郡上板町佐藤塚字東 288-3

ミーティング案内

グループ	開催日・時間	会場・住所
松山	毎月第2土曜日 13:00~15:00	カトリック松山教会 愛媛県松山市三番町4丁目5-5
香川	毎週土曜日 13:00~15:00	かがわ総合リハビリテーションセンター 香川県高松市田村町1114番地
丸亀	毎月第1日曜日 13:15~15:15	カトリック丸亀教会 香川県丸亀市幸町2-6-28
徳島	毎月第4土曜日 13:00~14:00	藍里病院 徳島県板野郡上板町佐藤塚字東288-3

会場予約等、諸事情により日程変更となる場合があります。
開催日時の確認等、下記のお問合せ先へ事前に御連絡ください。

家族会 メリーゲート お問い合わせ

TEL:090-9450-7173

E-mail:admire12step@yahoo.co.jp

* 秘密は厳守いたします。安心してご相談・お問合せ下さい。

家族の体験談

息子は今32歳。処方薬を大量に服用して、おかしくなった。飲んでは暴れた。家の中は、めちゃくちゃ。何回か警察にも助けを求めたが、解決しなかった。私達夫婦は彼に頼まれるまま病院を掛け持ちして、大量の処方薬を渡していた。金銭もできるだけ応援した。“してはいけないこと”のほとんどをやった。薬を飲んで暴れ、自殺未遂を繰り返す息子。そしてどうにもならなくなった。

そんな頃、亨さん※と出会った。“病気なのはあなただよ”と言われた。納得できなかった。だって私は自分が一番の被害者だと思い込んでいたんだもの。その後も亨さんの提案にはほとんど従わなかった。提案されても「だって、でも、そんなこと言ったって…」私の耳は聞くことを拒み頭の中は自分の考えしかなかった。その凝り固まった考えで自分の答えを出す。今までさんざん失敗してきたのに、まだ懲りずにやり続けた。“あの子を立ち直らせることが出来るのは私達の愛情だけ”まさしく病気だった。困った時だけ昼夜を問わず亨さんに電話する。なのに提案は受け入れない。変わらない私。

そんな中、事件は起きた。大量に薬を飲んだ息子が灯油をまき家に火を放った。全焼だった。すべてを失って、はじめて目がさめた。家族会に通った。亨さんの提案を少しずつ受け入れた。少しずつ回復が始まった。各地で行われるフォーラム、ナラノンに参加するたび仲間の大切さを実感した。現在息子には会っていない。彼を回復させられるのは私ではない。息子を仲間の所へ送り出してやる事が本当の親の愛だとやっと気づけた。

最近またスリップしてしまった。家族会で吐いた。仲間に聞いてもらい笑われ少し楽になった。まだまだ病気全開の私だが、仲間と共に回復していきたい。私は私。自身の回復の為、仲間の回復の為、自分にできるサービスを精一杯やっていきたい。それが彼の回復の一番の近道だと今やっと信じられるようになったから。これからはかつての私のように出口のないトンネルの中で苦しんでいる家族が、ひとりでも多く家族会に繋がれるよう私は私のできる事を仲間と共にやり続けたい。

※えひめダルク 代表 村上 亨

えひめ（香川・徳島）ダルク事業案内

薬物乱用防止啓発活動

薬物乱用防止・啓発活動の一環として、医師や弁護士と連携し、学校及び教育機関、行政機関、保護観察所、刑務所、病院等で講演活動を行っています。

毎年、えひめダルクのフォーラムを開催しています。医師や弁護士を中心とした講師講演やダルクの仲間による体験談発表が主な内容です。ぜひ、私たちのメッセージを聴きに来ませんか？

面会メッセージ・裁判における情状証人出廷

刑務所・拘置所、専門病院などへの面会メッセージ活動を行っています。また、薬物事犯などの裁判における情状証人出廷を、医師・弁護士と連携して行っています。

相談支援事業と家族会

依存症に悩んでいる当事者、家族、関係者の方からの相談を 24 時間、受け付けています。相談内容に応じて医療機関や弁護士等と連携し、問題の解決に向けた支援を提供しています。

依存症の問題にお悩みの家族の方には、家族会（自助グループ）や、藍里病院で行っている依存症家族教室「クラフトプログラム」をご紹介しますので、ご相談ください。

- * 薬物、アルコール、クレプト、ギャンブルなど様々な依存症に関する相談に対応いたします。

法務省委託事業 自立準備ホーム（香川・徳島ダルク事業）

薬物犯罪等の刑務所出所者（仮釈放の者を含む）や保護観察中の方に、薬物依存症の治療及び回復のプログラムと、入寮（共同生活）による生活訓練を提供することで、再犯防止を図るだけでなく、社会の有用な一員として自立した生き方が出来るようサポートを行います。

- * この事業は、香川・徳島ダルクが実施している事業です。
事業についての詳しいご説明や、利用の相談については、えひめダルクにご連絡ください。

相談窓口

一人で悩まず、共に解決の糸口を探しましょう!

DARC(ダルク)とは、「薬物依存」「アルコール依存」「ギャンブル依存」「クレプトマニア(窃盗症)」「摂食障害」などの、「依存症」から回復する為の専門施設です。(入寮・通所でのリハビリプログラムを提供しています)

子どもやパートナー、家族が依存症かもと感じているあなた、今すぐご連絡ください。専門スタッフが対応しますので、一人で悩まずに下記の連絡先へお電話、またはメールにてお問合せ下さい。(ご相談の内容や個人情報等、秘密は厳守いたしますのでご安心ください)

えひめダルク 相談窓口

TEL: 080-3994-4173

E-mail: kagawadarc@ybb.ne.jp



えひめダルク 住所

〒791-8013 愛媛県松山市山越 2丁目 6-32